

日本教育社会学会

The Japan Society of Educational Sociology

第74回大会プログラム

2022

9月10日（土）・11日（日）
（オンライン開催）



日本女子大学

主催：日本教育社会学会

共催：日本女子大学人間社会学部教育学科

学問生産性の本質

一日米比較

有本 章著

A5・上製・768頁・8580円

官僚や政治家、医者など有名大学出身のエリートたちの不祥事が度々報じられる今、大学、延いては学問それ自体の意義が再考を強く迫られている。日本を蝕む社会病理の根源に「学問生産性」の衰退があることを喝破する。その上で、学問の本質をないがしろにする一方、権力を求め執着するエリートたちの欲望主義と現在の経済格差を具体的に検証しつつ適正な大学改革を提言した大著の緊急出版。



女性学長はどうすれば増えるか

高橋裕子・河野銀子編著
A5・並製・168頁・1980円

欧米に比べ、日本の女性学長の割合が低い要因を構造的に明らかにしたシンポジウムでの女性学長7名の提言を書籍化。

キー・コンピテンシーとPISA

福田誠治著
A5・上製・496頁・5280円

ウェルビーイングでない時代の閉塞を打開するため、その時代や社会に適応できる学力・能力を明らかにし、その能力を修得できる教育の制度化を丹念に辿る最新作。



大学進学にともなう地域移動

遠藤 健著
A5・上製・256頁・3960円

「東京一極集中」ではなく、地元の価値を認め、県内・圏域内で進学するばかりか就職後もUターンを志望する地方の高校生たちの進学行動を明らかにした新進気鋭の研究！

連邦制国家インドにおける高等教育の展開

渡辺雅幸著 A5・上製・200頁・3520円
90年代以降の教員資格や入試等の政策決定権を巡って、中央一州両政府間の緊張関係を明らかにする。インド教育制度の複雑な仕組みを丁寧に解き、体系的な分析を初めて行った類書なき研究！



- 日本の大学改革の方向** 江原武一著 A5・二八〇頁・三三二〇円
高等女学校における良妻賢母教育の成立と展開 姜華著 A5・二五二頁・五七二〇円
多言語教育に揺れる近代日本 下絵津子著 A5・二六四頁・三五二〇円
戦後日本の大学教育の回顧と展望 絹川正吉著 A5・九六頁・一一〇〇円
教養と大学スタッフ 絹川正吉著 A5・八八頁・一一〇〇円
日本の留学生政策の評価(増補新装版) 佐藤由利子著 A5・二八八頁・三八六〇円
日本高等教育における「グローバル人材」育成力 譚君怡著 A5・三二八頁・三七四〇円
学生を成長させる海外留学プログラムの設計 河合塾編 A5・三二八頁・三七四〇円
イスラーム教育改革の国際比較 日下部達哉編著 A5・三二八頁・三七四〇円
インドネシアのイスラーム基礎学習の組織的展開 中田有紀著 A5・二五六頁・三六三〇円
イギリス大学制度成立史 山崎智子著 A5・二五六頁・三五二〇円
カリフォルニア大学ガバナンスと戦略 清水彩子著 A5・二五六頁・二八六〇円
現代アメリカ教育ハンドブック(第二版) アメリカ教育学会編 B5・三八八頁・三九六〇円
コロナ禍の学校で「何が起こり、どう変わったのか」 細田真由美編 佐藤博志編著 朝倉雅史著 A5・一六八頁・一七六〇円
教科専門性をはぐくむ教師教育 日本社会科教育学会編 A5・三二二頁・三三二〇円
STEM高等教育とグローバル・コンピテンシ 山田礼子編著 A5・三二二頁・三三二〇円
地域子ども学をつくる 天童睦子・足立智昭責任編集 A5・二八〇頁



東信堂
直接注文
お問い合わせ



アマゾン



楽天
ブックス



honto

東信堂

* 博論書籍化、教科書等の出版相談は代表メールまで！

〒113-0023 東京都文京区向丘 1-20-6
 HP <http://www.toshindo-pub.com>
 ☎ 03-3818-5521 ☎ 03-3818-5514
 ✉ toshindo.onlineorder1985@gmail.com
 ✉ tk203444@fsinet.or.jp (代表)

目次

	(頁)
○大会日程・各種会合	3
○ご案内	4-5
◇9月9日(金)	
若手研究者交流会	6
◇9月10日(土)	
研究発表Ⅰ(9:30~12:00)	(頁)
【Ⅰ-1】 テーマ部会 コロナ禍における学校教育と格差	7
【Ⅰ-2】 教育の歴史社会学	8
【Ⅰ-3】 子ども	9
【Ⅰ-4】 教育と差別・人種	10
【Ⅰ-5】 ジェンダー	11
【Ⅰ-6】 地域社会と教育	12
【Ⅰ-7】 進路と教育(1)	13
【Ⅰ-8】 異文化と教育(1)	14
【Ⅰ-9】 大学の教員と職員	15
【Ⅰ-10】 青少年	16
研究発表Ⅱ(14:25~16:25)	(頁)
【Ⅱ-1】 テーマ部会 進路選択が男女で異なるメカニズム	17
【Ⅱ-2】 テーマ部会 大津市事件以降のいじめ問題	18
【Ⅱ-3】 能力主義と学歴	19
【Ⅱ-4】 社会問題と教育	20
【Ⅱ-5】 教師	21
【Ⅱ-6】 社会階層と教育	22
【Ⅱ-7】 グローバリゼーションと教育	23
【Ⅱ-8】 大学と人材育成	24
【Ⅱ-9】 高等教育(1)	25
研究発表Ⅲ(16:50~18:50)	(頁)
【Ⅲ-1】 テーマ部会 「エビデンスに基づく教育」に対する質的研究の可能性	26
【Ⅲ-2】 初等・中等教育(1)	27
【Ⅲ-3】 生徒の人間関係	28
【Ⅲ-4】 家族と教育	29
【Ⅲ-5】 特別支援教育	30
【Ⅲ-6】 進路と教育(2)	31

【Ⅲ－ 7】	異文化と教育（2）	．．．．．	32
【Ⅲ－ 8】	高等教育（2）	．．．．．	33

◇9月11日（日）

研究発表Ⅳ（9:30～12:00） (頁)

【Ⅳ－ 1】	テーマ部会 家庭における性教育	．．．．．	34
【Ⅳ－ 2】	テーマ部会 戦後復興期から高度経済成長期の学校教育の 比較歴史社会学的研究	．．．．．	35
【Ⅳ－ 3】	初等・中等教育（2）	．．．．．	36
【Ⅳ－ 4】	テクノロジーと教育	．．．．．	37
【Ⅳ－ 5】	いじめ	．．．．．	38
【Ⅳ－ 6】	学校外教育	．．．．．	39
【Ⅳ－ 7】	震災と進路形成	．．．．．	40
【Ⅳ－ 8】	留学生	．．．．．	41
【Ⅳ－ 9】	高等教育（3）	．．．．．	42
【Ⅳ－10】	国際共同研究特設部会 The International Joint Study Session on Teachers and Society in East Asia	．．．．．	43

課題研究（13:00～16:00） (頁)

I	教育社会学は学力政策に貢献できるのか？	．．．．．	44
II	職業と教育の関係再考-専門学校を事例として	．．．．．	45
III	多様な子どもの「支援」を教育社会学はどう見るか —外国につながる子ども・障害をもつ子ども・ 不登校の子どもとの研究の対話	．．．．．	46

大会日程

前日：9月9日（金）	
16:00～18:00	若手研究者交流会
第1日：9月10日（土）	
9:30～12:00	研究発表Ⅰ・テーマ部会
12:00～12:50	昼食
12:50～13:40	総会
13:40～14:00	学会奨励賞授与式
14:00～14:25	休憩
14:25～16:25	研究発表Ⅱ・テーマ部会
16:25～16:50	休憩
16:50～18:50	研究発表Ⅲ・テーマ部会
第2日：9月11日（日）	
9:30～12:00	研究発表Ⅳ・テーマ部会
12:00～13:00	昼食・各種会合
13:00～16:00	課題研究Ⅰ
13:00～16:00	課題研究Ⅱ
13:00～16:00	課題研究Ⅲ

※黄色マーカー部分は、オンライン開催への変更に伴って時間を変更しましたのでご注意ください。

各種会合

前日：9月9日（金）	
13:30～15:00	編集委員会
15:00～16:00	常務会
16:00～18:00	理事会
第1日：9月10日（土）	
12:05～12:50	総会打ち合わせ
第2日：9月11日（日）	
12:05～12:50	課題研究Ⅰ 打ち合わせ
12:05～12:50	課題研究Ⅱ 打ち合わせ
12:05～12:50	課題研究Ⅲ 打ち合わせ

ご案内

1. 会場

大会は Zoom を利用してオンラインで開催します。研究発表や総会などの Zoom 会場にアクセスするための URL 情報は、大会日程の一週間前までに、日本教育社会学会ウェブサイトの「マイページ」の「お知らせ」に掲載される予定です。その他、常務会や理事会、編集委員会や課題研究打ち合わせなどの各種会合にアクセスする URL 情報は、各会合の主催者から参加者に直接連絡されます。

マイページには、以下の URL からアクセスできます。学会のウェブサイトの SOLTI（会員情報管理システム）にログインするとすぐにマイページが表示されます。ログインするためには、会員 ID とパスワードを入力する必要があります。学会からの郵送物の宛名の下に掲載されている番号です。ID・パスワードがご不明な場合は、学会ウェブサイトの「会員情報管理システム」より「ログインできない方はこちら」へお進みください。

<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/mypage/Educational>

2. 参加資格

Zoom 会場にアクセスするための URL 情報は、参加を申し込んで参加費を支払った方にのみ、「マイページ」の「お知らせ」に掲載されます。参加申し込みがお済みでない方、または参加費未納の方は、以下の参加申し込みシステムの URL からお手続きください。参加申し込みが可能な期間は、**2022 年 5 月 9 日（月）～8 月 26 日（金）**です。参加費は、クレジットカードによるオンライン決済か、銀行振込のいずれかで支払うことができます（なお、参加費をお振込みでご納入くださった場合は、データの反映に数日要します点をご了承ください）。オンライン開催に転換したため、**上記の期間を過ぎますと参加申し込みができません。くれぐれもお気をつけください。**

<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/apply/Educational>

なお、参加申し込み時にも、会員 ID の入力が必要です。また、非会員の方もウェブサイトから臨時会員としての参加申し込みと参加費の支払いができます。

【大会参加費】

会員（一般）5,000 円	会員（学生）2,000 円
臨時（一般）6,000 円	臨時（学生）3,000 円

大会参加費は、会員（学生）は会員（一般）よりも 3,000 円減額されています。この減額分には、学会による大会参加負担軽減措置としての 1,000 円分が含まれています。**学生会員として参加申し込みをする場合、ウェブサイトに参加申し込みをするときに、学生証の画像（在籍課程と有効期限が明瞭なもの）をアップロードしていただきますのでご用意ください。**「臨時（学生）」には、学部学生が含まれます。

3. 司会者と発表者の留意事項

Zoom 会場へのアクセス情報は上記に説明したとおりですが、部会の運営方法等の詳細については追ってお知らせします。なお、**今大会における発表はライブ型発表のみとなります。オンデマンド型発表は行いません。**また、対面大会と同様に、総括討論の時間をとります。

司会者と発表者の方は、事前に接続や画面共有、運営手順などを確認するため、部会開始の 15 分前に各部会の会場に入場してください。各部会には、発表時間を管理したり、発表資料を Zoom のチャットにアップしたりする補助者を配置します。配布したい資料のファイルがある場合には、チャットを利用して部会開始前に補助者にファイルをお渡しいただければ、発表時間中に発表者の代理としてチャットにアップします。

発表時間は、発表者の人数によって下記のようになります。発表時間は厳守願います。発表開始時のマイク・ビデオオンや画面共有等の手続きに要する時間も発表時間に含まれます。なお、オンライン開催への変更に伴い、質疑応答の時間を2分短縮します（赤字部分）。短縮した2分間は、発表終了に伴って共有画面を閉じたり、次の発表者に交代したりする時間を調整するために用い、部会のタイムスケジュールはプログラム通りに進めます。

発表者1名 …発表20分+質疑応答3分

発表者2名以上…発表40分+質疑応答8分

4. 発表要旨集録

大会期日に先だって、オンラインにて発表要旨集録を2つの方法で閲覧可能にします。1つは、要旨閲覧システムです。要旨閲覧システムは、発表要旨を個別に閲覧することができます。もう1つは、学会ウェブサイトです。学会ウェブサイトには発表予定の要旨すべてをまとめたものを掲載します。

5. 欠席の場合

発表者が欠席するときは、大会時前日（9月9日）までに必ず、大会実行委員会にe-mail (jses2022@gmail.com) でお知らせください。発表者が欠席の場合、発表時間の繰り上げは行いません。

6. バリアフリー対応

本学会では、学会発表や学会活動のさまざまな場面において「色覚バリアフリー」の実現をめざしています。色覚バリアフリーとは、色彩の識別が困難な人たちが一定の割合でいらっしゃるという科学的見地にもとづき、大会発表資料等におけるカラー色の使い方の配慮など、適切な工夫が必要であるという考え方です。誰にとってもわかりやすい資料提示をめざし、特にカラー資料の提示の際には、次の点にご配慮くださいますよう、お願い申し上げます。

- ① 赤と緑の識別が困難な場合が多いので、配慮する。
- ② 明度の差を利用し、コントラストのはっきりした色の塗り分けを工夫する。
- ③ 輪郭線や境界線で、塗り分けの境を強調する。
- ④ ひとつの図版に使う色数は、なるべく少なくする。
- ⑤ 対象箇所を各色で示さず、場所や形でも指定する。
（例：この四角い赤のマークは…）

若手研究者交流会

9月9日（金） 16:00-18:00

若手研究者交流会を、大会前日（9月9日）に開催いたします。若手研究者交流会の目的は、大学院生をはじめとする若手の研究者が大学・研究室をこえた交流を通して、研究上の関心や課題、新たな気づきを共有し、研究者相互のネットワークを拡充することです。

今年度は、対面とオンラインのラウンドテーブルを用意して進めてきましたが、コロナウイルスの感染拡大にともない、全てのラウンドテーブルをオンラインで開催することに致しました。いずれか一つのテーブルにご参加いただくことになります。

参加希望の方は、9月7日（水）までに下記のフォームより、お申し込みください。ご登録いただいたメールアドレス宛に、当日の会場の情報等をお送りいたします。多くのお申し込みをお待ちしています。

【日時】 2022年9月9日（金）16:00～18:00（懇親会は開催しません）

【場所】 Zoom

【参加対象】 大学院生や初期キャリア段階にある若手研究者で、教育社会学に関心のある方（非学会員も可）

【参加費】 無料

【ラウンドテーブル】

1) 文献の読み方（初級）

話題提供者：山口 真美（松山東雲女子大学）

ファシリテーター：瀬戸 麗（大阪大学大学院）

2) 文献の読み方（中・上級）

話題提供者：藤村 達也（京都大学）

ファシリテーター：野村 駿（秋田大学）

3) 論文の書き方（質的・歴史研究）

話題提供者：栗原 和樹（一橋大学大学院）・今井 聖（立教大学）

ファシリテーター：三浦 綾希子（中京大学）

4) 論文の書き方（量的研究）

話題提供者：吉田 航（国立社会保障・人口問題研究所研究員）

ファシリテーター：知念 渉（神田外語大学）・数実 浩佑（宝塚大学）

5) 海外留学（留学開始～就職～出版）

話題提供者：山田 亜紀（玉川大学）

ファシリテーター：住野 満穂子（明治大学）

6) 博士論文執筆・出版

話題提供者：鈴木 雅博（明治大学）

ファシリテーター：梅田 崇広（愛媛大学）

※ 研究者間の交流を目的としているため、カメラの使用を推奨します。ただし、機器が準備できないなどの事情がある場合には、カメラをOFFにして参加することも可能です。

【申し込みフォーム】 申し込みは[こちら](#)から

【問い合わせ先】 jses.seminar.2122@gmail.com

【担当】

教育部 副部長：知念 渉（神田外語大学）

部員：梅田 崇広（愛媛大学）・野村 駿（秋田大学）



I－1 部会

テーマ部会 コロナ禍における学校教育と格差

9月10日（土）9：30－12：00

司会

石田賢示（東京大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9：30－9：55 | 1. コロナ禍における児童生徒の学校生活・意識
有海拓巳（浜銀総合研究所） |
| 9：55－10：20 | 2. コロナ禍における小中学生および保護者のリスクと格差
中村高康（東京大学） |
| 10：20－10：45 | 3. コロナ禍におけるパネルデータを用いた「教育格差」分析
松岡亮二（龍谷大学） |
| 10：45－11：10 | 4. コロナ禍における学校現場の多忙化とその背景
多喜弘文（法政大学） |
| 11：10－11：35 | 5. コロナ禍に学校はどのように対応したのか——学校行事に注目して
香川めい（大東文化大学） |
| 11：35－12：00 | 総括討論 |

I－2 部会

教育の歴史社会学

9月10日（土）9：30－12：00

司会

江口潔（九州大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9：30－9：55 | 1. 大学大衆化による受験指導の変容—全共闘世代予備校講師を中心に—
藤村達也（京都大学） |
| 9：55－10：20 | 2. 1930-1940 年代の「登校拒否」「登校忌避」教育相談におけるナラティブ
柴田恵輔（早稲田大学大学院） |
| 10：20－10：45 | 3. 不登校問題の分岐点—1988 年緊急集会の歴史的意義と課題—
水谷千景（京都大学大学院） |
| 10：45－11：10 | 4. 教育機会拡大期における中学校技術教育の変容
—1960-70 年代の技術教育研究会の展開に焦点をあてて
松田洋介（大東文化大学） |
| 11：10－11：35 | 5. 海軍飛行予科練習生出身者の学歴意識——旧制中学卒への上昇をめぐって
清水亮（日本学術振興会（早稲田大学）） |
| 11：35－12：00 | 総括討論 |

I－3 部会

子ども

9月10日（土）9：30－12：00

司会

高木誠一（国際武道大学）

- | | |
|-------------|--|
| 9：30－9：55 | 1. 就学前教育機関の在籍者数と在籍率の変遷：就園に関する統一的データの作成
坪井瞳（東京成徳大学） |
| 9：55－10：20 | 2. 教育的介入に関するオンライン・サーベイ実験の試み
岡部悟志（株）ベネッセコーポレーション） |
| 10：20－10：45 | 3. 中学生・高校生における「部活動中心の学校生活」の様態：
「子どもの生活と学びに関する親子調査」の二次分析から
加藤一晃（名古屋芸術大学） |
| 10：45－11：10 | 4. 子どもの社会的ネットワークの発達による変容に関する調査研究
○ 村田育也（福岡教育大学）
河野稔（兵庫大学・非会員）
阿濱茂樹（山口大学・非会員）
菅木啓介（福岡教育大学（非常勤）・非会員） |
| 11：10－12：00 | 総括討論 |

I－4 部会

教育と差別・人種

9月10日（土）9：30－12：00

司会

小内透（札幌国際大学）

-
- | | |
|-------------|---|
| 9：30－9：55 | 1. 教育による包摂／教育への包摂
長澤敦士（京都大学大学院） |
| 9：55－10：45 | 2. 移民第二世代の追跡調査—コロナ禍における仕事・家族・差別
○ 角替弘規（静岡県立大学）
○ 清水睦美（日本女子大学）
○ 児島明（同志社大学）
○ 額賀美紗子（東京大学）
○ 坪田光平（職業能力開発総合大学校）
三浦綾希子（中京大学）
藪田直子（大阪成蹊大学）
劉麗鳳（日本大学） |
| 10：45－11：35 | 3. 部落出身高校生のアイデンティティ形成と部落問題学習
○ 石川結加（大阪大学大学院）
○ 高田一宏（大阪大学）
棚田洋平（一般社団法人 部落解放・人権研究所）
橋本幸一（大阪大学大学院）
内田龍史（関西大学）
藤井伸二（大阪大学大学院）
山内結（大阪大学大学院・非会員） |
| 11：35－12：00 | 総括討論 |

I－5 部会

ジェンダー

9月10日（土）9：30－12：00

司会

眞鍋倫子（中央大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9：30－9：55 | 1. 家庭向けの図書に見る日本の性教育
SerykhTatiana（金沢大学大学院） |
| 9：55－10：20 | 2. 学校教育における「ジェンダー『問題』」の可視化および
その変容に関する言説分析（2）
藤田由美子（福岡大学） |
| 10：20－10：45 | 3. 即興演劇における男性演者のジェンダー・バイアス表出への恐怖とその克服
園部友里恵（三重大学） |
| 10：45－11：10 | 4. 教育の階層化とジェンダー：
JGSS を用いた中高年女性の教育歴とキャリアの関連についての分析
佐野和子（大阪商業大学） |
| 11：10－11：35 | 5. 専攻間賃金格差とジェンダー
豊永耕平（立教大学） |
| 11：35－12：00 | 総括討論 |

I－6 部会

地域社会と教育

9月10日（土）9：30－12：00

司会

尾川満宏（広島大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9：30－9：55 | 1. 地方移住者にみる若者の移行過程
角亮典（早稲田大学大学院） |
| 9：55－10：20 | 2. 大学立地と大学・大学院生人口分布の関連
寺田悠希（東京大学大学院） |
| 10：20－10：45 | 3. ボランティア教育における組織社会化過程の分析
—大学生の内省データを用いた計量テキスト分析—
日高正樹（島根県立大学短期大学部） |
| 10：45－11：10 | 4. 若手教師における学習塾の受容：
「学校らしさ」と「学習塾らしさ」の語りに着目して
溝脇克弥（名古屋大学大学院） |
| 11：10－11：35 | 5. 在住外国人に対する言語教育—生涯学習・社会教育の視点から—
松下恵子（和歌山大学） |
| 11：35－12：00 | 総括討論 |

I－7 部会

進路と教育（１）

9月10日（土）9：30－12：00

司会

菊地栄治（早稲田大学）

- | | |
|-------------|--|
| 9：30－9：55 | 1. 初職に対する大学入試の影響
西丸良一（同志社大学） |
| 9：55－10：20 | 2. 「ジョブ型エンジニア」キャリアの規定因 ―高専卒業生調査の再分析―
新谷康浩（横浜国立大学） |
| 10：20－10：45 | 3. 高等専修学校における進路決定と新型コロナウイルス
―生徒への局所的な影響と教員のネットワークの重要性―
伊藤秀樹（東京学芸大学） |
| 10：45－11：10 | 4. 内部進学的光と影―附属・系属校出身者に対するインタビュー調査をもとに―
○ 沈雨香（早稲田大学）
武藤浩子（東京大学）
山本桃子（東京国立博物館・非会員）
木村康彦（千葉大学・非会員）
藤本啓寛（早稲田大学）
吉田文（早稲田大学） |
| 11：10－11：35 | 5. 地方中核市の中学3年生の学歴希望―JELS 第二期調査から
王傑（慶応義塾大学） |
| 11：35－12：00 | 総括討論 |

I－8 部会

異文化と教育（１）

9月10日（土）9：30－12：00

司会

徳永智子（筑波大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9：30－9：55 | 1. グローバル・マインドネスの形成に関する教育社会学的研究
小林元気（鹿児島大学） |
| 9：55－10：20 | 2. ウェルビーイング視点からとらえる外国につながる子どもへの支援
○ 吉田美穂（弘前大学）
桐村豪文（弘前大学） |
| 10：20－10：45 | 3. 移民生徒に対する教員のまなざし
—都立高校定時制X校における教員インタビュー—
高橋史子（東京大学） |
| 10：45－11：35 | 4. 公教育における外国人生徒の排除と包摂—5つの高校の比較調査から—
○ 榎井縁（大阪大学）
○ 轟蕙菁（大阪大学大学院）
○ 山脇佳（大阪大学大学院）
石川朝子（下関市立大学）
王一瓊（大阪大学）
大川ヘナン（大阪大学大学院）
山本晃輔（関西国際大学） |
| 11：35－12：00 | 総括討論 |

I－9 部会

大学の教員と職員

9月10日（土）9：30－12：00

司会

伊藤彰浩（名古屋大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9：30－9：55 | 1. 「大学職員の国際化」に対する認識 —大学の事例報告に着目して—
小嶋緑（広島大学大学院） |
| 9：55－10：20 | 2. 大学における実務家教員の経歴と教育観
二宮祐（群馬大学） |
| 10：20－11：10 | 3. 大学教員の研究生産性の実態とその規定要因の国際比較
—1992 年と 2017 年に実施した大学教授職国際調査を用いて—
○ 有本章（兵庫大学）
○ 大膳司（広島大学）
○ 黄福涛（広島大学） |
| 11：10－12：00 | 総括討論 |

I－10部会

青少年

9月10日（土）9：30－12：00

司会

稲葉浩一（和光大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9：30－9：55 | 1. 地元つながりの再構築と継承—バンドマンの飲酒実践を事例に—
新山大河（立命館大学大学院） |
| 9：55－10：20 | 2. 若者のキャリア形成過程における地域間格差是正をめぐる地方社会の隘路
中山間地域のX校と卒業生聞き取り調査からの考察
市村望（一橋大学大学院） |
| 10：20－10：45 | 3. 若年層の社会的排除構造：パネルデータによる多母集団の潜在クラス分析
百瀬由璃絵（東京大学大学院） |
| 10：45－11：35 | 4. 女性と「立ち直り」—更生保護施設退所者を対象とした追跡調査より—
○ 都島梨紗（岡山県立大学）
○ 西本佳代（香川大学）
志田未来（日本女子大学） |
| 11：35－12：00 | 総括討論 |

Ⅱ－１部会

テーマ部会 進路選択が男女で異なるメカニズム

9月10日（土）14：25－16：25

司会

打越文弥（Princeton University） 豊永耕平（立教大学）

- | | |
|-------------|--|
| 14：25－14：50 | 1. 高等教育における専攻分野選択の格差：社会階層とジェンダーの役割を中心に
白川俊之（広島大学） |
| 14：50－15：15 | 2. 未就学児に対する教育期待のジェンダー差
田邊和彦（大阪大学大学院／日本学術振興会） |
| 15：15－15：40 | 3. 子どもに対する親の教育期待の性差と親の性別役割意識との関連
佐伯厘咲（大阪大学大学院） |
| 15：40－16：05 | 4. 専門学校への進学とジェンダー
眞鍋倫子（中央大学） |
| 16：05－16：25 | 総括討論 |

Ⅱ－２部会

テーマ部会 大津市事件以降のいじめ問題

9月10日（土）14：25－16：25

司会

岡邊健（京都大学）

- | | |
|-------------|--|
| 14：25－14：50 | 1. 大津市事件以降のいじめ問題を考えるために—この10年を俯瞰して—
間山広朗（神奈川大学） |
| 14：50－15：15 | 2. いじめをめぐる事実認定の今日的様相—第三者委員会に着目して—
今井聖（立教大学） |
| 15：15－15：40 | 3. いじめ認定言説の展開—旭川市中学生凍死事件をもとに—
稲葉浩一（和光大学） |
| 15：40－16：05 | 4. いじめ対策の新展開—ルールづくりと学級集団づくり—
久保田真功（関西学院大学） |
| 16：05－16：25 | 総括討論 |

Ⅱ－３部会

能力主義と学歴

9月10日（土）14：25－16：25

司会

本田由紀（東京大学）

- | | |
|-------------|---|
| 14：25－14：50 | 1. 資本主義批判論は教育社会学に何を問うているのか
～能力主義の問い直しを踏まえた試論的考察～
居郷至伸（帝京大学） |
| 14：50－15：15 | 2. 子どもの将来への希望の有無とその要因について
鳥越ゆい子（四天王寺大学） |
| 15：15－15：40 | 3. 学力に対するきょうだい構成の影響
中村聖（北海道大学大学院） |
| 15：40－16：05 | 4. 中国における労働者階級の子弟が高学歴取得のメカニズム —努力に着目して
丁名揚（筑波大学大学院） |
| 16：05－16：25 | 総括討論 |

Ⅱ－４部会

社会問題と教育

9月10日（土）14：25－16：25

司会

牧野智和（大妻女子大学）

- | | |
|-------------|---|
| 14：25－14：50 | 1. 社会問題の伝達者としての教師のライフストーリー
—教師が授業で真理を語る「パレーシア」に着目して—
村井大介（静岡大学） |
| 14：50－15：15 | 2. 「社会問題ワーカー」としての教師による生徒指導と規則執行
原田拓馬（山口大学） |
| 15：15－15：40 | 3. 学校教育をめぐるテレビ報道の分析
○ 井上剛男（鈴鹿大学短期大学部）
越智康詞（信州大学）
加藤隆雄（南山大学）
酒井真由子（上田女子短期大学） |
| 15：40－16：05 | 4. 教育へと切り込む社会学とは何なのか
—マイケル・F・D・ヤングにおける実証をしないdisciplineを焦点に—
柳田雅明（青山学院大学） |
| 16：05－16：25 | 総括討論 |

Ⅱ－５部会

教師

9月10日（土）14：25－16：25

司会

油布佐和子（早稲田大学）

- | | |
|-------------|--|
| 14：25－14：50 | 1. 異文化を生きる外国人教員の複合的な役割：日本の公立高校を例に
王一瓊（大阪大学大学院） |
| 14：50－15：15 | 2. なぜ教員免許更新制は廃止されたのか？ — 教員の視点による教員免許更新制
山田浩之（広島大学大学院） |
| 15：15－15：40 | 3. 「インクルーシブ教育」を問い直す—全国公立小学校校長・教員調査を中心に—
菊地栄治（早稲田大学） |
| 15：40－16：05 | 4. 見えない残業時間の研究：公立小中学校教員対象のウェブ調査から
○ 内田良（名古屋大学大学院）
加藤一晃（名古屋芸術大学）
太田知彩（名古屋大学大学院）
西村祐二（名古屋大学大学院）
長谷川哲也（岐阜大学） |
| 16：05－16：25 | 総括討論 |

Ⅱ－6 部会

社会階層と教育

9月10日（土）14：25－16：25

司会

古田和久（新潟大学）

-
- | | |
|-------------|--|
| 14：25－14：50 | 1. 幼児教育は学力格差是正に寄与するか—実証研究のレビューを手がかりに—
賀数さゆり（お茶の水女子大学大学院） |
| 14：50－15：15 | 2. 大学進学格差に及ぼす社会経済的地位と遺伝の影響—行動遺伝学的分析
安藤寿康（慶應義塾大学） |
| 15：15－16：05 | 3. 都市で育つ／育てる——親子への量的・質的調査に基づく社会空間の素描
○ 知念渉（神田外語大学）
○ 西田芳正（大阪府立大学）
○ 栗原和樹（一橋大学大学院）
○ 田中祐児（東京大学大学院）
数実浩佑（宝塚大学）
西徳宏（大阪大学）
山口真美（松山東雲女子大学）
瀬戸麗（大阪大学大学院）
秋山みき（大阪大学大学院）
志水宏吉（大阪大学大学院） |
| 16：05－16：25 | 総括討論 |

Ⅱ－７ 部会

グローバル化と教育

9月10日（土）14：25－16：25

司会

石川由香里（立正大学）

- | | |
|-------------|--|
| 14：25－14：50 | 1. ナショナリズムに関わる歴史教育についての一考察
——南アフリカ共和国の高等学校段階の歴史科の任意の教科書を手がかりに
坂口真康（兵庫教育大学） |
| 14：50－15：15 | 2. 作文にみるアジア在住海外子女の現地理解
渋谷真樹（日本赤十字看護大学） |
| 15：15－15：40 | 3. 国際バカロレア履修生の学びと経験
——自身の成長をどのように捉えているのか——
○ 木村光宏（岡山理科大学）
御手洗明佳（淑徳大学） |
| 15：40－16：05 | 4. 国際バカロレア履修生が身につける資質・能力
○ 御手洗明佳（淑徳大学）
木村光宏（岡山理科大学） |
| 16：05－16：25 | 総括討論 |

Ⅱ－８部会

大学と人材育成

9月10日（土）14：25－16：25

司会

中村高康（東京大学）

- | | |
|-------------|--|
| 14：25－14：50 | 1. 「グローバル人材」とは誰か？
——トビタテ生のシンボリック・バウンダリーに着目して
太田知彩(名古屋大学大学院) |
| 14：50－15：15 | 2. 大学の地域教育・出身大学所在地愛着度・初職所在地の関係性
——社会科学分野と工学分野の比較
小山治(京都産業大学) |
| 15：15－15：40 | 3. 大衆型高等教育の拡大と「エリート大学」における卓越人材の教育
宇田川拓雄(嘉悦大学) |
| 15：40－16：05 | 4. 企業の学生と若手社員への〈主体性〉要求に関する分析
——企業は〈主体性〉を求めているのか——
武藤浩子(東京大学) |
| 16：05－16：25 | 総括討論 |

Ⅱ－９部会

高等教育（１）

９月１０日（土）１４：２５－１６：２５

司会

山内乾史（佛教大学）

- | | |
|-------------|--|
| １４：２５－１４：５０ | １．高等教育における「学費」「授業料」の意味の再検討：
同一領域の機関間比較を通じて
白川優治（千葉大学） |
| １４：５０－１５：１５ | ２．日本の教育と仕事との間には断絶があるのか
廣田英樹（文部科学省国立教育政策研究所） |
| １５：１５－１５：４０ | ３．医学教育分野別評価の受審は医学教育の改善を促すのか
—アンケート調査の分析結果から
田中正弘（筑波大学） |
| １５：４０－１６：０５ | ４．教育過剰と ICT 技術——産業と ICT 利用に着目した実証分析——
瀬戸健太郎（早稲田大学大学院） |
| １６：０５－１６：２５ | 総括討論 |

Ⅲ－１ 部会

テーマ部会 「エビデンスに基づく教育」に対する質的研究の可能性

9月10日（土）16：50－18：50

司会

粕谷圭佑（奈良教育大学）

- | | |
|-------------|---|
| 16：50－17：15 | 1. 教師のライフヒストリー研究に対する方法論への批判的検討
伊勢本大(松山大学) |
| 17：15－17：40 | 2. 戦後教育史研究の諸課題 ——歴史叙述の分かれ道——
香川七海(日本大学) |
| 17：40－18：05 | 3. 社会学的授業研究の可能性とエビデンス
森一平(帝京大学) |
| 18：05－18：30 | 4. 教師の実践的知識をいかにエビデンスとして位置づけるべきか
中西啓喜(桃山学院大学) |
| 18：30－18：50 | 総括討論 |

Ⅲ－２部会

初等・中等教育（１）

９月１０日（土）１６：５０－１８：５０

司会

鈴木雅博（明治大学）

- | | |
|-------------|--|
| １６：５０－１７：１５ | １．生徒指導の実践を通じた指導観変容・固定化のプロセス分析—M-GTA を用いて
村上慧（名古屋大学大学院） |
| １７：１５－１７：４０ | ２．学級の成熟過程に関する実証的研究—小学校のエスノグラフィーを通じて—
齋藤楓美（神奈川大学大学院） |
| １７：４０－１８：３０ | ３．初任者教員の授業実践をめぐるアクションリサーチの可能性
—形式構造の記述とフィードバック場面の分析から—
○ 山田鋭生（共栄大学）
○ 小野奈生子（共栄大学）
高嶋江（立教大学大学院） |
| １８：３０－１８：５０ | 総括討論 |

Ⅲ－３ 部会

生徒の人間関係

9月10日（土）16：50－18：50

司会

北澤毅（立教大学）

- | | |
|-------------|---|
| 16：50－17：15 | 1. 生徒間トラブルの不活化過程の記述
梅田崇広（愛媛大学） |
| 17：15－17：40 | 2. スクールカーストの起源とその新しいかたち
——中学高校のクラスの雰囲気の歴史的変化
小原一馬（宇都宮大学） |
| 17：40－18：05 | 3. 中学生によるいじめ相談—セーフティネットとしての友人関係—
○ 澤田涼（名古屋大学大学院）
藤川寛之（名古屋大学大学院）
古殿真大（名古屋大学大学院）
内田良（名古屋大学） |
| 18：05－18：50 | 総括討論 |

Ⅲ－４部会

家族と教育

9月10日（土）16：50－18：50

司会

田中理絵（西南学院大学）

- | | |
|-------------|--|
| 16：50－17：15 | 1. 児童養護施設で暮らす子どもたちの進路選択
宇田智佳(大阪大学大学院) |
| 17：15－17：40 | 2. 学校-家庭連携に対する期待と評価
—ある公立小学校の保護者への聞き取り調査をもとに—
山口真美(松山東雲女子大学) |
| 17：40－18：05 | 3. 児童養護施設の進路支援における困難—子どもの家族関係に着目して—
山口季音(至誠館大学) |
| 18：05－18：30 | 4. 親の公共的価値志向とパーソナルネットワーク
荒牧草平(大阪大学) |
| 18：30－18：50 | 総括討論 |

Ⅲ－５部会

特別支援教育

9月10日（土）16：50－18：50

司会

木村祐子（東京成徳大学）

- | | |
|-------------|--|
| 16：50－17：15 | 1. 普通学級における支援児童の学級活動への参加
中江優花（京都大学大学院） |
| 17：15－17：40 | 2. 通常の学級在籍児童の特別支援学級への転籍に関わる教師の認識と方略
—教師と保護者の合意形成のプロセスに着目して—
鶴宮慶（早稲田大学大学院） |
| 17：40－18：05 | 3. 障害児と健常児による遊びの共同的達成
—すごろくゲームの組織化に見る子どものコンピテンス—
○ 佐藤貴宣（立命館大学）
久保田裕斗（京都大学大学院） |
| 18：05－18：30 | 4. 障害のある子どもの保護者にとっての就学
○ 酒井朗（上智大学）
鈴木菖（上智大学大学院） |
| 18：30－18：50 | 総括討論 |

Ⅲ－６部会

進路と教育（２）

９月１０日（土）１６：５０－１８：５０

司会

佐藤香（東京大学）

- | | |
|-------------|---|
| １６：５０－１７：１５ | １．公立高校の再編と「進路トラック」に関する研究
中村知世（大月市立大月短期大学） |
| １７：１５－１７：４０ | ２．教育達成過程におけるモビリティの趨勢
村山詩帆（佐賀大学） |
| １７：４０－１８：０５ | ３．国公立大学における女子学生比率と難易度の関係：入試制度の役割
○ 打越文弥（Princeton University）
黒木禎子（東京大学大学院・非会員） |
| １８：０５－１８：３０ | ４．地方県の非都市部からの教育達成
田垣内義浩（東京大学大学院） |
| １８：３０－１８：５０ | 総括討論 |

Ⅲ－７ 部会

異文化と教育（２）

9月10日（土）16：50－18：50

司会

河野銀子（山形大学）

- | | |
|-------------|--|
| 16：50－17：15 | 1. 移民的背景のある児童の学力と親の教育的関与
中原慧（京都大学大学院） |
| 17：15－17：40 | 2. 学齢期を超過した移民家庭の子どもの高校進学
劉麗鳳（日本大学） |
| 17：40－18：30 | 3. 移民集住地区の教育戦略の多様性—南米移民の保護者を事例に
○ 三浦綾希子（中京大学）
○ 芝野淳一（中京大学）
○ 大川ヘナン（大阪大学大学院） |
| 18：30－18：50 | 総括討論 |

Ⅲ－８部会

高等教育（２）

９月１０日（土）１６：５０－１８：５０

司会

平沢和司（北海道大学）

- | | |
|-------------|--|
| １６：５０－１７：１５ | １．青森県における高等教育機会と専門職養成系大学進学者のキャリア志向の関連
廣森直子（大阪信愛学院大学） |
| １７：１５－１７：４０ | ２．大学進学希望・併願パターンと出身地域との関係について
—2021年度「高校生の進路に関する保護者調査」を用いた検討—
朴澤泰男（国立教育政策研究所） |
| １７：４０－１８：３０ | ３．質的データにみる大学生の「成長」——選抜性による差異の検討
○ 濱中淳子（早稲田大学）
○ 吉田文（早稲田大学）
○ 山内乾史（佛教大学）
○ 葛城浩一（神戸大学） |
| １８：３０－１８：５０ | 総括討論 |

IV－１部会

テーマ部会 家庭における性教育

9月11日（日）9：30－12：00

司会

俣野美咲（東京大学）

9：30－10：20 1. 家庭における性教育の実態——2021年全国おうち性教育実態調査の分析（1）

○ 林雄亮（武蔵大学）
 苫米地なつ帆（大阪経済大学）

10：20－10：45 2. 性教育に否定的／消極的な母親の特徴
 ——2021年全国おうち性教育実態調査の分析（2）

土田陽子（帝塚山学院大学）

10：45－11：10 3. 子どもへの性教育に親のジェンダー規範はどうかかわるか
 ——2021年全国おうち性教育実態調査の分析（3）

石川由香里（立正大学）

11：10－11：35 4. 学校における性教育がもたらす効果の検証
 ——「第7回 青少年の性行動全国調査」の二次分析

反橋一憲（横浜高等教育専門学校（非常勤））

11：35－12：00 総括討論

IV－２部会

テーマ部会

戦後復興期から高度経済成長期の学校教育の比較歴史社会学的研究

9月11日（日）9：30－12：00

司会

片山悠樹（愛知教育大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9：30－9：55 | 1. 戦後新教育と馬場四郎—社会観・学問観との関連から—
丹治恭子(立正大学) |
| 9：55－10：20 | 2. 馬場四郎と初期社会科—「戦後」の取り組みとそれを阻んだもの—
岡本智周(早稲田大学) |
| 10：20－10：45 | 3. 高度成長期の「高校全入」をめぐる議論の再吟味—高校全員入学運動を事例に—
池本紗良(早稲田大学大学院) |
| 10：45－11：10 | 4. 過疎地域における学歴主義の制度化過程—中山間地域の高校の事例から—
磯尾奈加子(慶應義塾大学大学院) |
| 11：10－11：35 | 5. 集団教育の比較歴史社会学的文脈：戦後日本の学校での実践と思潮の検討から
相澤真一(上智大学) |
| 11：35－12：00 | 総括討論 |

IV－3 部会

初等・中等教育（2）

9月11日（日）9：30－12：00

司会

越智康詞（信州大学）

- | | |
|-------------|--|
| 9：30－9：55 | 1. 教育専門家と外部人材による教育実践の組織化
渡邊綾（一橋大学大学院） |
| 9：55－10：20 | 2. 中国における中学生の進学意識
包婉蓉（広島大学大学院） |
| 10：20－10：45 | 3. スクールソーシャルワーカーは自律性を発揮しうるのか？
—専門性と労働条件の負のループ—
藤本啓寛（早稲田大学） |
| 10：45－11：10 | 4. 教育政策における平等と公正の概念に関する考察
卯月由佳（国立教育政策研究所） |
| 11：10－11：35 | 5. 中国地方都市進学校のサバイバルストラテジー
—X 中学校の農村生徒募集を事例として—
付江天（上智大学大学院） |
| 11：35－12：00 | 総括討論 |

IV－4 部会

テクノロジーと教育

9月11日（日）9：30－12：00

司会

山本宏樹（大東文化大学）

-
- | | |
|-------------|--|
| 9：30－9：55 | 1. 台湾の学校教育分野におけるVR技術の応用の展開と課題
劉語霏（台湾・中國文化大學） |
| 9：55－10：20 | 2. 学校ICT設備と教員のITスキルが双方向オンライン授業の実施と
教員の働き方に与える影響：コロナ禍の全国データの分析より
赤林英夫（慶應義塾大学） |
| 10：20－10：45 | 3. 学校とテクノロジー：ICT活用をめぐる教師の動機と戦略
藤川寛之（名古屋大学大学院） |
| 10：45－11：35 | 4. 小学校教員の教育観と学校教育DXの課題
—小学校教員全国調査（2021）から—
○ 武内清（敬愛大学客員教授）
○ 西本裕輝（琉球大学）
○ 馬居政幸（静岡大学名誉教授）
新井郁男（上越教育大学名誉教授）
黄順姫（筑波大学）
腰越滋（東京学芸大学）
黒河内利臣（武蔵野大学非常勤）
濱嶋幸司（函館大谷短期大学）
大島真夫（東京理科大学）
佐野秀行（大阪人間科学大学）
谷田川ルミ（芝浦工業大学）
山口泰史（帝京大学）
望月重信（明治学院大学名誉教授） |
| 11：35－12：00 | 総括討論 |

IV－5 部会

いじめ

9月11日（日）9：30－12：00

司会

久保田真功（関西学院大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9：30－9：55 | 1. 外国にルーツを持つ児童のいじめ被害
須藤康介（明星大学） |
| 9：55－10：20 | 2. 高等学校におけるネットいじめ経験者の特徴と意識変化に関する検討
○ 長谷川誠（神戸松陰女子学院大学）
原清治（佛教大学） |
| 10：20－10：45 | 3. ネットいじめの要因―地方国立大学の調査から―
徐莉（宇都宮大学大学院） |
| 10：45－11：10 | 4. 高校生のネットいじめ経験が進路選択に及ぼす影響
○ 竹内正興（香川大学）
原清治（佛教大学） |
| 11：10－12：00 | 総括討論 |

IV－6 部会

学校外教育

9月11日（日）9：30－12：00

司会

古賀正義（中央大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9：30－9：55 | 1. 宿題と通塾の背景と効果—日本の学校外学習機会の構造とは—
森いづみ（上智大学） |
| 9：55－10：20 | 2. オルタナティブスクールにおける「学び」の多様性と標準化
—教育機会確保法後のオルタナティブスクールが置かれる現状に着目して—
竹中烈（愛知文教大学） |
| 10：20－10：45 | 3. 教育達成に対する学校外教育継続の因果効果
藤原翔（東京大学） |
| 10：45－11：10 | 4. 学校外教育の効果—誰が「ご破算」をしているか—
眞田英毅（同志社大学） |
| 11：10－11：35 | 5. 分位点に着目した学校外学習時間の計量分析
胡中孟徳（東京大学大学院） |
| 11：35－12：00 | 総括討論 |

IV－7 部会

震災と進路形成

9月11日（日）9：30－12：00

司会

山田哲也（一橋大学）

-
- | | |
|-------------|---|
| 9：30－9：55 | 1. 地方小都市の高校生の進路分岐と東日本大震災のインパクト
—学校基本調査の個票の再集計から—
清水睦美（日本女子大学）
○ 妹尾渉（国立教育政策研究所）
日下田岳史（大正大学）
堀健志（上越教育大学）
松田洋介（大東文化大学） |
| 9：55－10：45 | 2. 地方小都市の高校生の進路形成と東日本大震災のインパクト
—3 市生徒・保護者質問紙調査（2022 年）の結果から—
清水睦美（日本女子大学）
妹尾渉（国立教育政策研究所）
○ 日下田岳史（大正大学）
○ 堀健志（上越教育大学）
松田洋介（大東文化大学） |
| 10：45－11：35 | 3. 被災地にかかわる若者のライフコース
○ 鈴木勇（大阪成蹊大学）
○ 山本晃輔（関西国際大学）
○ 岡邑衛（千里金蘭大学）
榎井縁（大阪大学）
志水宏吉（大阪大学）
高原耕平（人と防災未来センター・非会員）
宮前良平（福山市立大学・非会員） |
| 11：35－12：00 | 総括討論 |

IV－8 部会

留学生

9月11日（日）9：30－12：00

司会

小林元気（鹿児島大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9：30－9：55 | 1. 中国人元留学生の子育て戦略—その葛藤と対策
李敏（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構） |
| 9：55－10：45 | 2. アジアへのまなざしと留学
—大学生のアジア留学をめぐる言説の分析を通して—
○ 岩渕和祥（東京都立大学）
○ 嶋内佐絵（東京都立大学） |
| 10：45－11：35 | 3. 留学教育の行為者によるグローバリゼーション像の多元性
○ 正楽藍（神戸大学）
○ 杉野竜美（神戸医療未来大学） |
| 11：35－12：00 | 総括討論 |

IV－9 部会

高等教育（3）

9月11日（日）9：30－12：00

司会

白川優治（千葉大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9：30－9：55 | 1. 中国における大学生の進路希望の規定要因
成倩倩（広島大学大学院） |
| 9：55－10：20 | 2. コロナ禍の影響を通してみる日米高等教育市場の特質
福留東土（東京大学） |
| 10：20－10：45 | 3. 大学の卒業生アイデンティティの類型化—卒業生の手記を題材に—
古畑翼（筑波大学大学院） |
| 10：45－11：10 | 4. 戦後日本のキャンパスにおける礼拝
齋藤崇徳（独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構） |
| 11：10－11：35 | 5. 新興国における高学歴化とアスピレーション
——親階層の影響の検討、マレーシアを例に
田中李歩（アジア経済研究所） |
| 11：35－12：00 | 総括討論 |

IV－１０部会

The International Joint Study Session on Teachers and Society in East Asia

9月11日（日）9：30—12：00

Chairperson

Fukahori, Satoko (Kyushu University)

&

Ogawa, Mitsuhiro (Hiroshima University)

9：30—9：50	Greetings by representatives of academic societies
9：55—10：00	Statement of the Purpose of the Study
10：05—10：25	1. From Pedagogue to Professional Teachers: Teacher Professionalization Restated from the View of Historical Sociology in China Chang, Yahui (Shaanxi Normal University)
10：30—10：50	2. Teachers' Status Quo of the Changing Society in Taiwan Huang, Hsiu-Ping (National Taitung University)
10：55—11：15	3. Reconstruction of Teacher Identity in Korean Contemporary Social Structures and Contexts Kim, Ki Hong (Seonghwa Elementary School)
11：20—11：40	4. Basic Characteristics of Teachers and Society in Japan Illuminated through International Comparisons Nakamura, Akihito (Kyoto University of Education)
11：45—12：00	Questions and Discussion

課題研究 I

教育社会学は学力政策に貢献できるのか？

9月11日（土）13：00—16：00

【趣旨】

学力調査／学力格差は、教育と社会階層／政策科学を主要な研究関心としてきた教育社会学にとって重要なテーマである。日本でも2007年に全国学力・学習状況調査が開始され、また『教育格差』が社会問題の一つとして認識されつつあり、学力調査／学力格差問題は、主要な教育問題の一つとなったと言ってよいだろう。その一方で、教育社会学（あるいは教育社会学会）は十分に存在感を発揮しているだろうか。確かに全国学力・学習状況調査を筆頭に、教育行政が実施する学力調査は少なくない。しかし子どもの社会的属性や教育格差の実態を把握すべきであるという教育社会学の知見・主張はいまだ十分に教育現場に浸透しているとは言えないのが現状である。結果として、教育社会学の学力研究者が必要とする、子どもの社会的属性を踏まえた中長期の学力パネルデータの整備はなかなか進んでいない。このような状況では、アメリカのような「学力調査の先進国」との差は開く一方であろう。さらに学力調査・学力研究という意味では、隣接領域の研究者の活動も見逃せない。たとえば教育経済学領域では、地方自治体と連携した（あるいは独自の）中長期の学力パネルデータの蓄積が進みつつある。以上のように、学力政策・学力調査をめぐる日本の現状には、教育社会学会として考えるべき課題・論点がいくつもある。ここには、現在の教育社会学会が置かれている状況や、学会の発信力などの問題も絡むだろう。こうした多様な観点から、教育社会学の学力政策における社会的プレゼンスを検討したい。

司会：川口俊明（福岡教育大学）

報告1：川口俊明（福岡教育大学）

教育社会学における学力研究の現状および課題

報告2：垂見裕子（武蔵大学；遠隔参加）

アメリカにおける学力調査

報告3：赤林英夫（慶應義塾大学）

教育経済学から見る教育社会学の強み／課題

討論者：耳塚寛明（青山学院大学）

（研究委員：川口俊明、浦田広朗、白松 賢、朴澤泰男）

課題研究Ⅱ

職業と教育の関係再考-専門学校を事例として

9月11日（土）13:00-16:00

【趣旨】

職業教育機関である専門高校や専門学校といった進路選択は、大学を頂点とする教育体系の中で、どちらかというと傍系の進路選択であり、「大学に行けない場合の進路選択」として捉えられる傾向にあった。また、これまでの日本型の雇用社会は、濱口（2009）が指摘するように、「職務のない雇用契約」が浸透しており、その結果として、教育と職業の関係が「密接な無関係」とも評される状況にあった。そのことと関連して、教育社会学における教育と職業の関係についての研究において、具体的な「職業」への着目はあまりみられなかったのではない。他方で、2000 年前後より、公的職業教育システムを再評価する動きもみられる。その中で、これまではあまり取り上げられることが少なかった専門学校などの研究も見られるようになってきた。これらの研究の蓄積を踏まえつつ、あらためて、教育社会学において教育と職業の関係を再考することが必要ではないだろうか。

本課題研究においては、特定の職業に特化した教育（＝専門学校）は、どのような層に選択され、またその後のキャリアとどのように結びついているのか、進路指導を行う教員にとって、生徒たちの専門学校進学はどのように受け止められているのかといった点から検討を行う。また、特定の職業教育をうけることと、労働市場におけるその職業の位置づけなどについての検討を通じて、これまで教育社会学が前提としてきた教育から職業への移行や教育と職業の関係について再考したい。

司会：眞鍋倫子（中央大学）、都島梨紗（岡山県立大学）

報告 1：片山悠樹（愛知教育大学）

ポスト工業社会における若者の初期キャリアー専門学校・スキル形成・ジェンダー

報告 2：尾場友和（大阪商業大学）

専門学校進学希望者の高校生活とキャリア意識

報告 3：岩脇千裕（日本労働政策研修機構）

専門学校卒業者のキャリア

討論者：小方直幸（香川大学）

（研究委員：眞鍋倫子、粕谷圭佑、白川俊之、都島梨紗）

課題研究Ⅲ

多様な子どもの「支援」を教育社会学はどう見るか

—外国につながる子ども・障害をもつ子ども・不登校の子どもの研究の対話

9月11日（土）13:00—16:00

【趣旨】

現在、学校教育において限定的であった子どもの「包摂」に関わる試みが進んでいる。ナショナルレベルの法や通達が出され、現場では子どもが何らかの「支援」を受けることで学校教育に「包摂」されることが目指されている。だが、彼／彼女らは子どもであるがゆえに、どのような「支援」を受け、どのように生きるかを、保護者や教師、支援関係者や行政といった周囲の大人によって先回りして方向付けられることにもなっているのではないだろうか。多様な子どもが現代社会で生きるための「支援」を教育現場が担う必要性が否定できないなかで、実際に行われている実践が、子どもたちをエンパワメントすることもあれば、息苦しくさせることもあるだろう。教育社会学は、この現実をどう分析し、また、どのような実践や政策を実現していくかに関わる議論にどう寄与できるのだろうか。

本課題研究では、外国につながる子ども、障害のある子ども、不登校の子どもをめぐる諸問題にフィールド調査を通して向き合ってきた登壇者を招き、子どもの「支援」の制度化が孕む問題について対話を試みる。これまで、各テーマ領域では問題意識も共有され、公的な「支援」の枠組みが希薄ななかでの現場の模索から、「支援」が制度化・義務化されるなかでの当事者や教育関係者の葛藤など、分析が進められている。しかし、相同的にもみえる「支援」の機運が進んでいるにもかかわらず、テーマ横断的な知見の共有はあまりなされてこなかったように思われる。

そこで本課題研究を、その対話の第一歩としたい。すなわち、各領域における「支援」の制度化が招く問題点やその限界を踏まえた上で、学校教育に保障できる「支援」とは何か。多様な子どもの進路保障や社会的統合を考えたときに、日本語能力や学力の獲得を価値基準とする「能力主義への支援」になりがちなことをどう考えるか。多様なアイデンティティや生き方への承認と、能力向上による承認の関係をいかに捉えることができるか。学校という制度であり空間である場と他の「支援」はどのような関係にあるのか。これらの問いに対し、教育社会学における方法論的視座を用いながら、教育と「支援」の多様な関係性について議論を深めていきたい。

司会：越川葉子（東京未来大学）

報告1：山田哲也（一橋大学）

不登校の子どもへの「支援」体制を再考する

—欠席をめぐる意味論の複層化にみる包摂／排除の再編—

報告2：金澤貴之（群馬大学）

特別支援教育（聴覚障害領域）における「支援」をめぐって

—手話による教育か、医療による「聴者」化か—

報告3：清水睦美（日本女子大学）

外国ルーツの子どもの「支援」をめぐる課題

—制度・能力主義・同化圧力による排除への対峙—

討論者：吉田美穂（弘前大学）

（研究委員：越川葉子、伊勢本大、渋谷真樹、元森絵里子）

第18回

児童教育実践 についての 研究助成

応募受付期間

2022.7.1 Fri. ▶ 10.31 Mon.

ことば、まなび、おうえん



助成期間

2023年4月1日から1年間または2年間

※2ヵ年助成の場合は1年経過時に中間報告の必要があります。

助成金額

1ヵ年助成：1件につき200万円を限度に助成します

2ヵ年助成：1件につき300万円を限度に助成します

対象となる研究

- 「ことばの力」を育む研究
- 児童教育実践の質を向上させる研究

審査委員

米田 英嗣 青山学院大学 准教授
針生 悦子 東京大学大学院 教授
藤野 博 東京学芸大学大学院 教授
藤森 裕治 文教大学 教授（審査委員長）
横山 詔一 国立国語研究所 教授
(五十音順)

応募資格

- 日本の大学・研究機関に所属する研究者
- 日本の学校・教育委員会に所属する
教育実践に携わる方

※応募に際しては、所属長あるいは指導教官からの推薦が必要です。



Webにて応募受付、詳しくは
博報堂教育財団ホームページをご覧ください
<https://www.hakuhodofoundation.or.jp/>

博報堂教育財団

Hakuhodo Foundation

〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-3 日比谷国際ビル14階 TEL:03-6206-6266 FAX:03-6206-6582

障害のある子供の教育支援の手引

～子供たち一人一人の教育的ニーズを
踏まえた学びの充実に向けて～



障害児の教育支援・
医療的ケアの理解がこの一冊で！

編著：文部科学省初等中等教育局
特別支援教育課

A4判／480頁
定価 1,980円（本体 1,800円＋税）
ISBN 978-4-86371-613-1

学校の「危機管理マニュアル」等の 評価・見直しガイドライン

＋学校安全推進のための教職員向け研修・訓練実践事例集



自然災害や火災、
突発的な事件事故から
児童生徒の命を守るために

著：文部科学省総合教育政策局

A4判／カラー 262頁
定価 1,980円（本体 1,800円＋税）
ISBN 978-4-86371-611-7

いますぐ使ってみて！教えてみたい！

発達に遅れがある 子どものためのお金の学習

著：川間健之介・川間弘子・奥由香
定価 2,530円／B5判／136頁
ISBN978-4-86371-632-2

困難を抱える子どもに どう寄り添うか

著：坪井節子
企画編集：一般社団法人子どもの未来応援団
定価 1,980円／四六判／218頁
ISBN978-4-86371-614-8

気になる保護者の 理解のために

「内なる子ども」との対話を通して

著：柳瀬洋美
定価 2,090円／四六判／216頁
ISBN978-4-86371-627-8



ギアース
教育新社

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-23 宗保第2ビル

TEL 03-5282-7183 / FAX 03-5282-7892

E-mail info@kyoikushinsha.co.jp / URL https://www.kyoikushinsha.co.jp/



月刊 高校教育

●定価1,045円（本体950円）・年間誌代14,905円（税込）（増刊2冊含む）
●高校教育の現状や課題を鋭く追求し、学校経営の考え方と事例を満載
した、高等学校管理職必携の雑誌。

対象：高等学校管理職

月刊 生徒指導

●定価902円（本体820円）・年間誌代12,848円（税込）（増刊2冊含む）
●小学校から高校の先生を対象とした、生徒指導の諸課題への取り組み
方と、学級経営の技術や考え方を論じた雑誌。

対象：小・中・高等学校教師 生徒指導担当教員

教師の底力

社会派教師が未来を拓く

●志水宏吉著 ●四六判・192頁 ●定価1,980円（本体1,800円＋税）
●ISBN 978-4-176-19126-8
●社会に貧困・格差・不平等が広がるなか、それを教育格差としない
「社会派教師」が求められている。そのような「教師の底力」こそが、
明日の教育と未来を拓く。第一線の教育社会学研究者が説く、現代
の教育への提言とヒント。

対象：教師全般

検証 日本の教育改革

激動の2010年代を振り返る

●京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーション・センター 監修
●南部広孝 編著
●四六判・256頁 ●定価2,750円（本体2,500円＋税）
●ISBN 978-4-176-19127-5

●学校教育において変化の激しかった2010年代を総括！ 新学習
指導要領／アクティブラーニング／専門職大学などの諸政策をま
とめ、その課題と今後の展開を提案する。

対象：小・中・高校教師

G 学事出版

ご注文は

TEL 03-3518-9016 FAX 03-0120-655-514
https://www.gakuji.co.jp

未来の教育を創る教職教養指針 4 教育と社会

●油布佐和子 編著

山崎準二・高野和子 編集代表

定価2,200円

現代社会のあり様と教育との関係をどう捉えるか。さまざまな領域の実態と課題から教育・学校の実態をマクロな視点で捉える。



「大学教育と社会」ノート

—高等教育論への誘い—

●山内乾史 著

定価2,860円

「大学教育」について教育社会学的な視点から分析・考察を行ったさまざまな論文を収録。高等教育論へ読者を誘う。



ブルデューの教育社会学理論

—教育システムと社会階級・社会秩序の再生産と変革の理論—

●小澤浩明 著

定価3,740円

「権力と正統性の一般人間学」の基礎理論としての教育社会学理論を再構成し、新たなブルデューの教育社会学理論像を提示。



児童養護施設の生活環境のダイナミクス

—一家庭で暮らせない子どもの育ちと職員の実践—

●山口季音 著

定価2,750円

児童養護施設における子どもの「育ち」、職員と相互に紡ぐ生活環境の実態に迫る。フィールドワーク調査から見てきたものとは。



キャリアを創る 一女性のキャリア形成論入門

●天童睦子 編

定価 990円

女性が主体的に自己の人生の展望をひらくことができる時代に、就職や就労のためだけのキャリアではなく、「ライフ・キャリア」の視点からやさしく解説。



LGBTと女子大学 一誰もが自分らしく輝ける大学を目指して

●日本女子大学人間社会学部LGBT研究会 編 定価1,100円

シンポジウム「『多様な女子』と女子大学—トランスジェンダーについて考える—」をもとに編まれたブックレット。女子大学の方向性を探る一冊。



画一化する授業からの自律

—スタンダード化・ICT化を超えて—

●子安 潤 著

定価2,420円

教育の画一化が、スタンダード化、そしてコロナ禍による急速な学校のICT化の下で拡大する事態に警鐘を鳴らす。



身体文化・メディア・象徴的権力

—化粧とファッションの社会学—

●黄 順姫 著

定価2,750円

身体文化・消費・象徴的権力の観点から化粧・ファッションを鋭くとらえ、現代日本におけるその再帰性を読み解く。



ダイバーシティ時代の教育の原理 第二版

—多様性と新たなつながりの地平へ—

●藤田由美子・谷田川ルミ 編著

定価2,420円

「ジェンダー」や「ダイバーシティ」視点から教育の歴史及び思想、教育の理念、現代の学校教育の諸課題について学びを深める。



新版 教育社会とジェンダー

●河野銀子・藤田由美子 編著

定価2,310円

幼児期、メディア、学校教育…等、私たちの世界にどのようなジェンダーが埋め込まれているか。LGBTの人々への視点を取り入れ新たに編まれたテキスト。

〒153-0064 東京都目黒区下目黒3-6-1
http://www.gakubunsha.com

学文社

Tel 03-3715-1501(代) Fax 03-3715-2012
E-mail: eigyo@gakubunsha.com

月刊「教育展望」

毎月1日発行、A5判、64頁、定価493円(448円+税)

2022年 特集

9月号 「Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に

関する政策パッケージ」をめぐる

7・8月合併号 指導と評価と目標の視点から学習評価を考える

6月号 学習意欲を高める教師の授業力

5月号 GIGAスクールの現状と課題

4月号 学校を問い直す

3月号 小学校高学年の教科担任制を考える

1・2月合併号 SDGs／ラーニング・コンパス2030

が描く教育の未来

2021年 特集

12月号 第50回教育展望セミナー テーマ別報告

11月号 第50回教育展望セミナー 全体会報告

10月号 子どもの安心安全を考える

9月号 通常の学級で学ぶ障害のある児童生徒への指導・支援

7・8月合併号 令和の時代の学級経営

6月号 改めて指導と評価の一体化を考える

5月号 令和の日本型学校教育の学校経営と教育活動の展望

「教育展望」臨時増刊

セミナー研究討議資料

A5判、定価2619円(2381円+税)

No.54 (第51回教育展望セミナー)

変革の時代の学校教育を展望するII

子どもが主体的に学びを深める学校教育の在り方

No.53 (第50回教育展望セミナー)

変革の時代の学校教育を展望する

「令和の日本型学校教育」をどのように進めるか

2021年7月発行、118頁

2022年7月発行、104頁

一般財団法人 教育調査研究所

(理事長 新井郁男)

〒135-0063 東京都江東区有明3-4-10 TFTビル西館

TEL: 03-3520-2970 FAX: 03-5579-6574

E-Mail: chouken@estate.ocn.ne.jp

教育からみる南アジア社会

交錯する機会と苦悩



押川文子 監修
A5判並製・264頁
定価2,750円

文化的・社会的多様性を抱える南アジア諸国の教育は、グローバル化が進む世界のなかで新たな課題に直面している。国家、宗教、民族、カースト集団、女性、貧困層など、多様なアクターの視点から教育の実情や問題点をさぐる。

日本のゼミナール教育

人文・社会科学領域等の 学士課程教育における学習共同体の姿



西野毅朗 著
A5判上製・318頁
定価4,400円

重要視されながらも、あまり実態が把握されてこなかった日本のゼミナール教育。その特徴を、歴史的経緯、現状と課題、さらに学生の学びの様子と社会とのつながり等、歴史的・量的・質的研究アプローチを用いて明らかにする。

公立大学の過去・現在 そして未来



田村秀 著
A5判上製・192頁
定価3,520円

公立大学は、国立大学と私立大学のはざまにたち、その存在価値が問われた過去もあるが、1990年以降、国の方針が変わり、地方都市での公立大学の設置ラッシュが続いた。人口が減少する将来、公立大学はどこへ向かえばいいのだろうか。

玉川大学出版部

〒194-8610 東京都町田市玉川学園 6-1-1 TEL 042-739-8935 FAX 042-739-8940
http://www.tamagawa-up.jp/ [価格税込]

喜始照宣 著
256頁 5060円

芸術する人びとをつくる 美大生の社会学
日本の美術教育は、芸術家としての生き方・あり方にどのような影響を与えているのか。

濱 貴子 著
320頁 7370円

職業婦人の歴史社会学

職業婦人と呼ばれた女性たちの実態・表象分析から、ジェンダー秩序の形成と変容のプロセスを、歴史社会的に明らかにする。

谷川至孝・岩槻知也 編著
188頁 2860円

子どもと家庭を包み込む地域づくり

教育と福祉のホリスティックな支援
ボランティア組織・社会福祉協議会、こども食堂……様々な機関が連携して住民が主役となる地域づくりのモデルを紹介し、展望する。

赤羽 由起夫 著
218頁 7150円

少年犯罪報道と心理主義化の社会学

戦後「第4の波」の少年犯罪報道を探り、現代社会の性質を明らかにする。
子どもの「心」を問題化する社会

川合 宏之 著
150頁 2750円

高校生と大学生がともにつくる高大連携授業

ナナメの関係が高校生にどのような影響を与えるのか
「高大連携授業」の実践と事例検証から、「大学生を介入させる高大連携」が有効であることを示す。

寺町 晋哉 著
214頁 2750円

教師の人生と向き合うジェンダー教育実践

ジェンダー平等な学校をつくるため、教師たちにできることは。
大津 尚志 著
142頁 1760円

校則を考える 歴史・現状・国際比較

どのような歴史を経て、「校則」と呼ばれるものができたのか
「校則」を多角的な視点から検討する。

都島 梨紗 著
240頁 4070円

非行からの「立ち直り」とは何か

少年院教育と非行経験者の語りから
一七名の少年院経験者の語りから、「立ち直り」を捉えなおす。

木村絵里子・齋田竜蔵・牧野智和 編著
194頁 2640円

場所から問う若者文化

ポストアーバン化時代の若者論
多様な「場所」からその姿の析出を試みた、若者論の新潮流。

柏木智子・武井哲郎 編著
186頁 2860円

貧困・外国人世帯の子どもへの包括的支援

地域・学校・行政の挑戦
井上 慧真 著
234頁 4180円

若者支援の日英比較

社会関係資本の観点から



晃 洋 書 房

京都市右京区西院北矢掛町七番地 TEL 075 (312) 0788 / FAX 075 (312) 7447
◎ 書籍の詳細はホームページから ▶▶▶ http://www.koyoshobo.co.jp

最新刊

ジェンダー平等に向けた本気の働き方・暮らし方改革を！

ジェンダーで読み解く 男性の働き方・暮らし方

ワーク・ライフ・バランスと
持続可能な社会の発展のために

なかなか進まない男性の家事・育児参加
男性稼ぎ手社会を壊すことは男性の生きづらさも解消する

◆ 四六判並製 / 256頁 ◆ 定価：1,980円（税込）

* コチラからご購入いただけます！

Amazonでのご購入



Rakutenでのご購入



紀伊國屋書店でのご購入



関西大学文学部教授

多賀 太 著

【主な内容】

- 序 無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）
- 第1章 男性稼ぎ手社会の終焉
- 第2章 ジェンダー平等の実現に向けて求められる男性の「ケア」労働
- 第3章 母親の「イライラ」と父親の「モヤモヤ」——「イクメン」ブームの功罪
- 第4章 家庭教育と父親役割のインフレ現象
- 第5章 ハラスメントのない職場づくりに男性はどう関わるか
- 第6章 社会を挙げてドメスティック・バイオレンス（DV）と虐待を防止する

【内容に関する問い合わせ】

時事通信出版局 営業企画部
Tel.03-5565-2155 mbook@book.jiji.com

<https://bookpub.jiji.com>

的確に社会を読みとり、課題に挑む

社会と調査

No.28 特集 家族のリアリティを調査する
——工夫・成果・課題

- ダイアド・データを用いて親子のリアリティを把握する 木村治生
- ダイアド・データによる夫婦関係の把握 鈴木富美子・佐々木尚之
- 回顧式家族調査の実際と展望 保田時男
- 全国家族調査における質的調査のとりくみ 木戸 功・戸江哲理・松木洋人
- 子育て家庭を内側からみる 伊佐夏実・敷田佳子・志田未来・金南咲季
- 世帯の境界を超えるステップファミリー 野沢慎司

谷 富夫・大谷信介／山下永子／浅川達人／小沢由香子／岸川 茂／新 雅史／野坂 真／堀田恭子／
室井研二／飯村春薫／山崎輝史／川田恵介／小村由香／尾崎幸謙／長松奈美江／石田光男／
元治恵子／青柳みどり／関 礼子／佐々木由理／宮國康弘／山田富秋／南出和余／石田 浩／
佐藤博樹／永吉希久子／藤原 翔／須藤康介

発行・編集 一般社団法人 社会調査協会

東京都文京区本郷 5-25-18 エルスタンザ本郷東大前 3F
TEL: 03-6273-9784 FAX: 03-5684-0374
<http://jasr.or.jp/>

入会申し込みについては、本協会ホームページをご覧ください。

制作・販売 株式会社 京都通信社

京都市中京区室町通御池上る 御池之町 309 (〒604-0022)
TEL: 075-211-2340 Mail: shigotoba@kyoto-info.com
<http://www.kyoto-info.com/>

書店にない場合は、京都通信社までお問い合わせください。



定価 本体 1,200円＋税
『社会と調査』は年2回発売（3月、9月）

購入方法

- 1 研究室や図書館などの定期購読をおすすめします。発売元の京都通信社にメールでお申し込みください。
- 2 個人購読は、もよりの書店を通じてお申し込みください。
※会員の方がたには、特典の1つとして無料配布しています。社会調査協会では販売を行っておりません。

教育学年報13号 *8月発売

情報技術・AIと教育

編集委員 青木栄一・石井英真・下司晶・仁平典宏・濱中淳子・丸山英樹 五十音順

矢野智司・井谷信彦 編集

教育の世界が開かれるとき

◎何が教育的思考を発動させるのか

《教育とは、時代批判的な歴史的世界の創造的行為―近代教育の思考法を問う―、課題に込める教育学的思考の新たな形を構築する試み》

劉麗鳳

中学中退

◎中国農村中学校の生徒と教師のエスノグラフィー

《中国農村部の子どもたちはなぜ学校を中退するのか（急激な経済成長）《都市と農村格差の拡大》《三元化社会・農民主義・三農問題》迫られる教育の対応、翻弄される子どもたち―問われる学校教育の可能性について考える―》

広瀬裕子 編

《戦後の教育と教育学を包括的にマッピングできるグラウンド・セオリーはどこに？ 変容しながら増殖する近代教育を掴まえる》

カリキュラム・学校・統治の理論

◎ポスト・グローバル化時代の教育の枠組み

2000円

石戸教嗣

《ルーマンのシステム論に依拠して、日本の教育システムの諸相を考察する。新自由主義が主導的なイデオロギーとなったこの35年間の教育の変化とは？》

現代教育のシステム論

◎ルーマンの構図

2300円

◎教育学年報

教育研究の新章

編集委員 下司晶・丸山英樹・青木栄一・濱中淳子・仁平典宏・石井英真・岩下誠

12号 国 家

編集委員 青木栄一・丸山英樹・下司晶・濱中淳子・仁平典宏・石井英真

永田佳之 編

変容する世界と日本のオルタナティブ教育

◎生を優先する多様性の方へ 5800円

高宮正貴

J・Sミルの教育思想

◎自由と平等はいかに両立するのか 3000円

林潤平

自然愛をめぐる教育の近代日本

◎自然観の創出と変容の一系譜

福元真由美

都市に誕生した保育の系譜

◎アン・シー・シヨニズムと郊外のユートピア

岩田一正

教育メディア空間の言説実践

◎明治後期から昭和初期までの教育問題の構成

平井悠介

エイミー・ガットマンの教育理論

◎現代アメリカ教育哲学における平等論の変容

日本教育学会教育勅諭問題ワーキンググループ 編

教育勅諭と学校教育

◎教育勅諭の教材使用問題をどう考えるか 2400円



世織書房

〒220-0042 横浜市西区戸部町7-240 文教堂ビル3階 TEL045-317-3176 / FAX045-319-0644
seori@nifty.com http://seorishobo.com (税抜)

学力格差を克服する学校文化

効果のある学校のエスノグラフィー

西 徳宏 著

(大阪大学大学院人間科学研究科 助教)



格差社会のなかで実現される公正な学校教育とは。

「効果のある学校」が持つ文化の成立と継承の実態を描き出す。「誰も見捨てない」独自の教育理念が継承されている学校の特徴、連携体制、教員の意識を分析する。



A5 上製・446 頁 ¥6,300

ISBN978-4-87259-743-1 C3037

未来志向の大学入試デザイン論

大阪大学高等教育・入試研究開発センター 編 ◎最新の大学入学者選抜入試の制度・戦略・業務を詳述。 A5並製・三二〇頁・二、七五〇

リフレクティブ・ダイアローグ

学習者オートノミーを育む言語学習アドバイザー

加藤聡子、ジョー・マイナード 著 ◎実際のアドバイジング実施方法を豊富な用例に基づき示す。 A5並製・四〇八頁・四、四〇〇

ウェルビーイングを実現する学力保障

高田一宏 著 ◎貧困・社会的排除の深刻化による学力格差を広げないために学校はどうあるべきか。 A5上製・二四二頁・四、九五〇

〈しんどい学校〉の教員文化

社会的マイノリティの子どもと向き合う教員の仕事・アイデンティティ・キャリア

中村瑛仁 著 ◎教員の専門性の内実 A5上製・二八〇頁・四、八四〇

〒565-0871 吹田市山田丘 2-7
大阪大学ウエストフロント
https://www.osaka-up.or.jp

大阪大学出版会

TEL 06-6877-1614
FAX 06-6877-1617 価格税込
E-Mail eigyo@osaka-up.or.jp

話題の書

ケイン・樹里安・上原健太郎 編著

忽ち8刷り!

メディア、家族、労働、ジェンダー、セクシュアリティ、差別、人種等の視点から、身近でエッジのきいた14のテーマを通して、社会の大きな仕組みにふれる。QRコードから「オンラインでふれる社会学」でお役立ち情報や過去のイベント等にもアクセス可能!

A5並 162頁 一八〇〇円

実践につながる教育原理

國崎大恩・藤川信夫 編著

知識を覚えるだけではなく、教育の根幹を考え、教育の未来を探究することのできる、大学の教員養成課程向けテキスト。各章冒頭に読者への問いかけを付し、自ら思考することを促す。また最新の知見から教育現場の理論と実践を学べるよう編まれた入門書。

A5並 209頁 二二〇〇円

教師と学生が知っておくべき

教育方法論・ICT活用

武田明典・村瀬公胤 編著

学生が実際に教育実習で授業を展開する上で欠かせない、教授法の理論的習得、その成果としてマイクロラーニングなど、指導案作成による模擬授業が展開できるような実践的なものをめざした学びやすい入門書。資料閲覧用のQRコード、用語解説も収録。

B5並 148頁 二二〇〇円

これからの特別支援教育 発達支援とインクルーシブ社会実現のために

日本発達心理学会「発達障害」分科会 監修/長崎勤・吉井勘人・長澤真史 編著

実践にかかわる専門職と学び考える 障害児保育・教育 山本勇 監修/山本智子 編著

A5並 136頁 一七〇〇円

ハンディ教育六法2022年版 浪本勝年 編集代表 四六並 513頁 二二〇〇円

チームで育む病気の子ども 「改訂版」新しい病弱教育の理論と実践 西牧謙吾・松浦俊弥 編著 A5並 176頁 二二〇〇円

教師のメソッドロジー 社会学的に教育実践を創るために 北澤毅・間山広朗 編著 A5並 184頁 二二〇〇円

変動社会と子どもの発達 「改訂版」教育社会学入門 住田正樹・高島秀樹 編著 A5並 186頁 二二〇〇円

未来を創る教育制度論 「新版」川口洋善・古里貴士・中山弘之 編著 A5並 240頁 二二〇〇円

子どもと教育の未来を考えるⅡ 岡部美香 編著 A5並 232頁 二二〇〇円

「子ども人間学」という思想と実践 生田久美子・安村清美 編著 A5並 176頁 一七〇〇円

ソーシャル・ファシリテーション 「ともに社会をつくる関係」を育む技法 徳田太郎・鈴木まり子 著 A5並 160頁 一六〇〇円

ふらつとライフ それぞれの「日常」からみえる社会 ふらつと教育パートナーズ・伏見裕子 編 A5並 160頁 一九〇〇円

メディア・リテラシー論 「改訂版」ソーシャルメディア時代のメディア教育 中橋雄 著 A5並 187頁 二二〇〇円

メディア・リテラシー教育 ソーシャルメディア時代の実践と学び 中橋雄 編著 A5並 181頁 二二〇〇円



北樹出版

〒153-0061 東京都目黒区中目黒1-2-6 TEL: 03-3715-1525 FAX: 03-5720-1488
URL: <http://www.hokuju.jp> E-mail: eigyol@hokuju.jp (価格は税別)

横井敏郎 編著

A5判上製288頁 税込4400円 ISBN978-4-326-25162-9

教育機会保障の国際比較

早期離学防止政策とセカンドチャンス教育

若者に対する各国の教育機会保障施策を検証し、課題を分析する。



前田信彦

A5判上製248頁 税込4180円 ISBN978-4-326-25156-8

キャリア教育と社会正義

ライフキャリア教育の探究

質的調査を基に、今後求められるライフキャリア教育を探究する。



小山静子

四六判上製296頁 税込3300円 ISBN978-4-326-65135-2

良妻賢母という規範 新装改訂版

良妻賢母思想の歴史の変遷を解き明かした名著。新たに序文を付す。



鈴木雅博

A5判上製308頁 税込7150円 ISBN978-4-326-25160-5

学校組織の解剖学

実践のなかの制度と文化

学校組織を生きた「教師」の方法の論理を実践に即して解明する。



佐川宏迪

A5判上製160頁 税込3850円 ISBN978-4-326-25150-9

定時制高校の教育社会学

教育システムの境界と包摂

定時制高校における「包摂」の論理を教師の語りから明らかにする。



耳塚寛明・浜野隆・富士原紀絵 編著

A5判上製296頁 税込3190円 ISBN978-4-326-25151-3

学力格差への処方箋

「分析」全国学力・学習状況調査

保護者調査を基に、学力と家庭の社会的経済的背景との関連を検討。



園山大祐 監修/園山大祐・田川千尋 監訳
京免徹雄・小畑理香 編

A5判上製448頁 税込5500円 ISBN978-4-326-60351-1

教師の社会学

※最新刊

フランスにみる教職の現在とジェンダー

教師/教師教育の現状と課題を、仏日の教育社会学者が検討。



勁草書房

<https://www.keisoshobo.co.jp>

〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 TEL 03-3814-6861 FAX 03-3814-6854

*表示価格は10%税込



実況中継・社会学 等価機能主義から学ぶ社会分析
北田 曉大 著
9月刊行予定 A5判 予定価 2090円

ネット社会と民主主義 「分断」問題を
調査データから検証する
辻大介 編
A5判 定価 3190円

ポリティカル・コレクティブネスからどこへ
清水晶子・ハントンヒョン・飯野由里子 著
9月刊行予定 四六判 予定価 1980円

持続するフェミニズムのために

グローバルゼーションと「第二の近代」を生き抜く理論へ
江原由美子 著
9月刊行予定 A5判 予定価 2860円

日本のフェミニズム 150年の人と思
井上輝子 著
四六判 定価 2420円

リーディングス
アジアの家族と親密圏(全3巻)
家族イデオロギー 第1巻

森本一彦・平井晶子・落合恵美子 編 A5判 定価 6930円

結婚とケア 第2巻

平井晶子・落合恵美子・森本一彦 編 A5判 定価 6930円

セクシュアリティとジェンダー 第3巻

落合恵美子・森本一彦・平井晶子 編 A5判 定価 6930円

「シカゴ学派」の社会学 都市研究と社会理論
松本 康 著
A5判 定価 3850円

都市に聴け アーバン・スタディーズから読み解く東京
町村敬志 著
四六判 定価 3190円

地域・都市の社会学 実感から問いを深める理論と方法
平井太郎・松尾浩一郎・山口恵子 著 有斐閣ストウディア 定価 2200円